

令和元年6月19日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03507

研究課題名(和文)古墳時代中期の政権構造に関する基礎的研究 - 古市古墳群高塚山古墳出土資料の調査 -

研究課題名(英文) A basic study on the administration structure in the middle of Kofun period-Investigation of the materials from Takatsukayama Kofun in the Furuichi Kofun Group-

研究代表者

田中 晋作 (TANAKA, SHINSAKU)

山口大学・人文学部・教授

研究者番号：40634738

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,450,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、まず、1965年に発掘調査されながら、長く公表されずにいた古市古墳群高塚山古墳の内容を明らかにすることができた。高塚山古墳は、百舌鳥・古市古墳群の確立段階の様相を知ることができる唯一の資料であり、その成果をこれまでに明らかにされてきた両古墳群の変遷の中に組み込むことによって、その全体像の把握が可能になった。さらに、このことを手がかりにして、日本および韓国の研究者の協力の下に、古墳時代中期の日本列島と朝鮮半島との外交を基軸にした政治、軍事、さらに各種生産に関する比較、検討を行い、古墳時代中期に畿内政権の中樞を担った百舌鳥・古市古墳群の勢力の政権構造を明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高塚山古墳の内容によって、古市古墳群を構成する中・小型主墳の被葬者に朝鮮半島と関係をもつ被葬者と朝鮮半島と距離を置く被葬者が併存することを明らかにすることができ、勢力内での階層格差に加え、職掌の分化が早い段階から進んでいたことを示した。

また、本研究の中で行った検討によって、古墳時代中期を、朝鮮半島を中心とした東アジア情勢の中で、日本列島における古代国家形成の画期として位置づけ、政治、外交、軍事にはじまり、これを支える強固な経済基盤の整備が百舌鳥・古市古墳群の勢力の勢力によって強力に押し進められた段階とすることができた。

研究成果の概要(英文)： In this study, first of all, we were able to clarify the contents of Takatsukayama Kofun, which was excavated in 1965. Takatsukayama Kofun is the only material that can know the appearance of the establishment stage of the Mozu-Furuichi Kofun Group, and by incorporating the results into the transition of the two Kofun Group, it becomes possible to grasp the whole picture.

Furthermore, based on this, with the cooperation of researchers from Japan and Korea, we compared and examined politics, military, and various types of production based on diplomacy between the Japanese archipelago and the Korean peninsula. In the middle of Kofun period, we were able to clarify the administration structure of the powers of the Mozu-Furuichi Kofun Group that played a central role in the Kinai administration.

研究分野：考古学

キーワード：古墳時代中期 百舌鳥・古市古墳群 高塚山古墳 政権構造 朝鮮半島 古代国家形成

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の主題とした古墳時代中期の政権構造については、当該期の畿内政権の中核勢力である百舌鳥・古市古墳群を対象にして、大きくつぎの4つの視点から研究が進められてきた。すなわち、両古墳群の構造に反映された階層的序列の形成、帯金式甲冑を介在させた諸勢力との政治的関係、外交と軍事によって維持された政権基盤、生産と交通体系の整備による経済基盤の確立である。すでに、これらの研究は、一定の到達点にあるにもかかわらず、それぞれの研究領域がもつ資料的限界から、これらの研究成果が政権構造の解明に十分反映されることなく終わっている。

それぞれの研究についてみると、

古墳時代前期以来、畿内に造営された大型古墳群を対象に、古墳群を構成する古墳数、規模や墳形等の多様化に着目して、政権内における階層的序列の形成過程究明が試みられてきたが、古墳群の構造分析からではその要因を導き出すことにおいて限界がある。

また、帯金式甲冑については、器物としての詳細な研究とその成果から導き出された古市・百舌鳥古墳群の勢力による一元的な生産と供給にもとづいた分析によって、甲冑の需給者間の政治的関係の解明が視野に入ってきた。しかし、その需給関係が生じる政治的背景については、器物としての武器研究からでは明らかにしえない部分でもある。

さらに、前期後半にはじまり、中期に本格化する朝鮮半島を対象とした長期間にわたる大規模な軍事的介入については、古市・百舌鳥古墳群の勢力に求められた鉄素材の確保等の外交的課題の解決がその要因としてあげられているが、大規模な軍事行動を発動できる体制に関しては具体的な裏付けをもって論じられていない。

一方、両古墳群の勢力のもとで専門化が急速に進んだ各種の生産活動は、日本列島がはじめて経験した技術革新の時代として位置づけられている。ところが、中期の政権が直面していた長期間にわたる大規模な軍事行動を継続して支える経済的基盤としての役割が見逃されてきた。

このように、相互に独立したかにみえるこれらの研究は、中期の政権構造を明らかにしていく上で本来補完的関係にあるべきものであって、ここにあげた4つの研究領域の成果の融合、体系化が、古墳時代中期の政権構造を明らかにする上で、現時点においてもっとも有効な方法となりうるものと考えた。

またこれに加えて、本研究を進めていく上で、百舌鳥・古市古墳群の確立期の様相が不明のままになっていることが大きな障害になっていた。この点については、図1に示したように、未報告になっている古市古墳群高塚山古墳出土資料の調査をもってこれを補訂すれば、古市古墳群が終焉を迎える後期前半の段階を除いて、中期の政権構造の推移を具体的な資料をもって検討できる条件が整えられると考えた。高塚山古墳(大阪府藤井寺市沢田)は、古市古墳群の確立期に築造された全長290[㍉]の大型前方後円墳、仲津山古墳後円部北側に位置する直径50[㍉]の円墳である。昭和29年、末永雅雄氏によって発掘調査が実施され、ほぼ未掘状態の埋葬施設とともに、武器・農具をはじめとする数多くの副葬品が出土した。しかし、諸般の事情により報告書が未刊行であった。

本研究では、高塚山古墳出土資料の調査によって百舌鳥・古市古墳群の推移を明らかにし、朝鮮半島を中心にした東アジア情勢のもとで、上記の4つの研究領域の成果の融合、体系化を図ろうとしたものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、繰り返すことになるが、古市・百舌鳥古墳群の勢力によって主導された古墳時代中期の政権構造を「1. 研究開始当初の背景」で示したように、これまでの研究成果を踏まえ、朝鮮半島を中心にした東アジア情勢のもとで、両古墳群の構造に反映された階層的序列の形成、帯金式甲冑を介在させた諸勢力との政治的関係、外交と軍事によって維持された政権基盤、生産と交通体系の整備による経済基盤の確立という視点を融合、体系化することによって、中国周縁部に成立する古代国家形成のメカニズム解明を目指すものである。

また、本研究を進める上で、両古墳群の確立段階の様相が不明であることが障害になっており、これを古市古墳群高塚山古墳出土資料によって補訂し、中期の政権構造の推移を検討する条件を整えることである。

3. 研究の方法

古墳時代中期の政権構造に関する基礎的研究について、成果の融合、体系化を図ろうとするために、

百舌鳥・古市古墳群の構造に反映された階層的序列の形成では、両古墳群を構成する各古墳の築造時期の特定と副葬品の内容の分析から、社会の発展に即応して進む組織の拡大、分化の推移と各古墳被葬者の政権内における位置およびその性格の変化を、帯金式甲冑を介在させた諸勢力との政治的関係では、これまで採られてこなかった時期区分にもとづく帯金式甲冑出土古墳の分布とその変遷から、両古墳群を支えた諸勢力が特定勢力に限定されていたことと政権の意志決定に關与する軍事エリートの出現を、外交と軍事によって維持された政治基盤では、従来行われてきた両古墳群出土の甲冑、馬具の検討に加え、これまで俎上にあがらなかった筒形銅器・鑷子状鉄器・鍔・サルボ

等の朝鮮半島系の資料を取り上げ、朝鮮半島で出土している同種の資料およびその出土古墳との対比から、中期の政権が朝鮮半島からの鉄素材や最新技術の獲得と東アジアにおける外交的位置の確保を必要としたこと、さらに朝鮮半島を対象にした長期間にわたる大規模な軍事活動が軍事エリートに軍事構成員へと変質させていくことを、生産と交通体系の整備による経済的基盤の確立では、各種生産の連関および軍事活動を支える武器等の生産、さらに瀬戸内海交通の成立を示す沿岸古墳の動静から、社会基盤の整備とともに大規模な軍事活動を支えていくことができる消費財の生産拡大と鉄器生産をリーディング産業とした生産財の本格的な生産による、再分配を目的とした初源的な産業連関構造が両古墳群の勢力のもとに成立していたことを、

明らかにできると考えた。

また、未報告のままになっている高塚山古墳出土資料の調査を行い、これまで不明のままであった古市・百舌鳥古墳群の確立段階の埋葬施設および副葬品の実態が明らかにできる。

以上の視点から、古墳時代中期の政権構造に関する基礎的研究について、両古墳群の構造に反映された階層的序列の形成過程究明に関して限界とした要因を、帯金式甲冑を介させた諸勢力との政治的関係と、外交と軍事によって維持された政権基盤から導き出した軍事との関わりによって、帯金式甲冑を介させた諸勢力との政治的関係が生じる背景については、外交と軍事によって維持された政権基盤と関連づけることによって、外交と軍事によって維持された政権基盤については、生産と交通体系の整備による経済基盤の確立とその維持、拡大をはかる必要性から、生産と交通体系の整備による経済基盤の確立については、両古墳群の構造に反映された階層的序列の形成、帯金式甲冑を介させた諸勢力との政治的関係、外交と軍事によって維持された政権基盤の成果の援用から補完し、

中国周縁に成立する古代国家形成のメカニズムを解明するひとつのモデルとして体系化を図ることができると考える。

さらに、高塚山古墳出土資料の調査については、既述したように、その内容を明らかにすることによって、百舌鳥・古市古墳群の勢力の特質として注目されてきた、先進的な武器や農工具の変遷過程の欠落部分を補訂することができ、古墳時代中期の政権構造の推移を辿ることを可能にする基準資料として完結させることができると判断した。

4. 研究成果

まず、基礎的な作業として実施した古市古墳群高塚山古墳出土資料の調査によって明らかにできたこととしてつぎのような成果がある。当初想定したとおり、高塚山古墳の出土資料によって古市古墳群の確立段階の様相を明らかにすることができた。

鉄鍬の形状および構成から、古市古墳群の初源期にあたる中期前半の盾塚古墳（多様な形状をもつ鉄鍬から構成された小型の鉄鍬を主体とする段階）と中期半ばの鞍塚古墳（限られた形状の鉄鍬から構成され大型の鉄鍬を主体とする段階）の間を埋めることができる資料として位置づけることができた（田中 ）。

出土資料の中に朝鮮半島製、あるいは朝鮮半島系の副葬品が含まれていないことを明らかにすることができたことにより、古市古墳群を構成する中・小型主墳の被葬者に朝鮮半島と関係をもつ被葬者と朝鮮半島と距離を置く被葬者が併存することを明らかにすることができた（田中・引用文献）。出土資料の構成から、大型主墳に帰属する陪塚に人体埋葬を主眼とする陪塚（高塚山古墳等）と特定物品の埋納を主眼とする陪塚（野中古墳等）が古市古墳群の成立当初から併存することを明らかにすることができた（田中・引用文献）。

つぎに、研究目的および研究方法で示した内容に関して、とくに、研究協力者として加わっていただいた韓国の研究者によって指摘された、たとえば、鍬形鉄製品が日本列島に類例が見出させないことをもって短絡的に朝鮮半島製としてきた従来の認識の危うさなどは、本研究においてきわめて

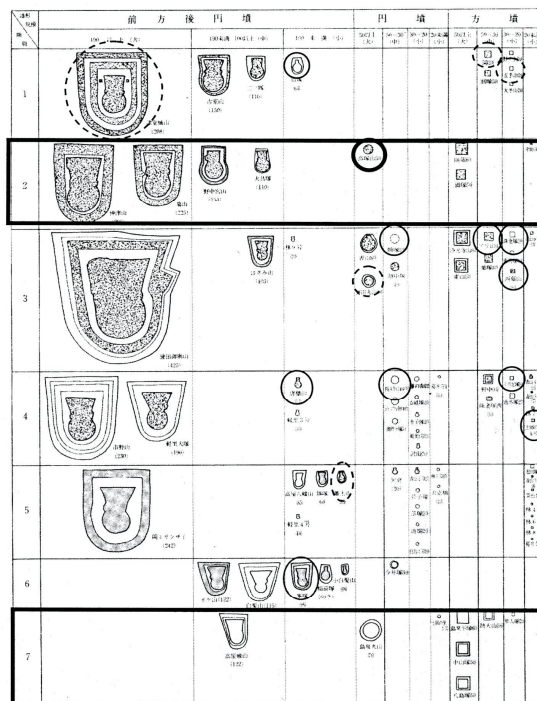


図1 古市古墳群編年図 【藤井寺市教育委員会 1993『新版古市古墳群』による】
 ●：高塚山古墳 ○：内容が判明している古墳
 ⊙：内容が断片的にしか判明していない古墳 □：内容が判明していない時期

有効であった。

まず、古墳時代中期の畿内政権（百舌鳥・古市古墳群の勢力）の成立について、その前史に遡って検討を行い、畿内政権内に政権の交替があったことを示した（田中・同）。両古墳群の構造に反映された階層的序列の形成過程究明に関して限界とした要因を、帯金式甲冑を介在させた諸勢力との政治的関係と、外交と軍事によって維持された政権基盤から導き出した軍事との関わりによって明らかにした（田中・同・引用文献・同・同）。

帯金式甲冑を介在させた諸勢力との政治的関係が生じる背景について、外交と軍事によって維持された政権基盤と関連づけることによって明らかにした（田中・同・同・引用文献・同）。

外交と軍事によって維持された政権基盤については、生産と交通体系の整備による経済基盤の確立とその維持、拡大をはかる必要性から明らかにした（田中・引用文献）。

生産と交通体系の整備による経済基盤の確立については、両古墳群の構造に反映された階層的序列の形成、帯金式甲冑を介在させた諸勢力との政治的関係、外交と軍事によって維持された政権基盤の成果の援用から補完して明らかにした（田中・引用文献・同・同・同）。

さらに、百舌鳥・古市古墳群の勢力の後退によって生じる、6世紀前半での畿内政権内の主導権の交替について検討することによって、両古墳群のもった政治システムおよび政権構造が大きく変化することを明らかにした（田中）。

以上の検討によって、当初かかげた中国周縁に成立する古代国家形成のメカニズムを解明するひとつのモデルとして示した。これらの内容については、あらためて一書とすることを目指している。今回の研究をとおして、当該時期の朝鮮半島の諸勢力との関係がきわめて重要であることを、具体的な資料を示すことによってあらためて指摘できたことは有用であったと判断する。

<引用文献>

- 李東冠「鉄製農工具からみた古墳時代中期の韓日交渉」『古墳時代中期の政権構造に関する基礎的研究 - 古市古墳群高塚山古墳出土資料の調査 -』（付帯研究編）2019、31-56、
太田宏明「大阪府 藤森古墳の検討」『古墳時代中期の政権構造に関する基礎的研究 - 古市古墳群高塚山古墳出土資料の調査 -』（付帯研究編）2019、81-100、
呉光燮「韓国の帯金式甲冑」『古墳時代中期の政権構造に関する基礎的研究 - 古市古墳群高塚山古墳出土資料の調査 -』（付帯研究編）2019、57-81、
高橋工「武器多量埋納古墳と政権」『古墳時代中期の政権構造に関する基礎的研究 - 古市古墳群高塚山古墳出土資料の調査 -』（付帯研究編）2019、111-126、
趙晟元「5世紀における韓半島南部地域と倭の交渉」『古墳時代中期の政権構造に関する基礎的研究 - 古市古墳群高塚山古墳出土資料の調査 -』（付帯研究編）2019、169-206、
塚本敏夫「副葬埋納品の成立過程と中期古墳造営システムの展開」『古墳時代中期の政権構造に関する基礎的研究 - 古市古墳群高塚山古墳出土資料の調査 -』（付帯研究編）2019、101-110、
藤田和尊「中期畿内政権の九州地方管理・経営戦略」『古墳時代中期の政権構造に関する基礎的研究 - 古市古墳群高塚山古墳出土資料の調査 -』（付帯研究編）2019、149-168、

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

1. 田中晋作「古市古墳群中・小型主墳の被葬者の性格」『白石太一郎先生傘寿記念論集 古墳と古代文化(仮題)』、査読無、2019、1-11、*田中
2. 田中晋作「古市古墳群高塚山古墳について」『泉森皎先生喜寿記念論集』査読無、2018、159-169、田中
3. 田中晋作「今城塚古墳と新興中小規模古墳の動静」『榎原考古学研究所論集』第17、査読無、2018、40-47、*田中
4. 田中晋作「古墳時代前期の政権構造について - 大和盆地東南部地域の勢力から佐紀・馬見古墳群の勢力へ - 」『前期古墳の編年を再考する』査読無、2018、216-272、田中
5. 田中晋作「武器の拡散にみる地域間関係」『古代武器研究』14、査読無、2017、5-20、*田中
6. 田中晋作「古墳時代中の銚出土古墳について - 百舌鳥・古市古墳群の勢力のもとに編制された軍事組織の特質 - 」『古代学研究』214号、査読有、2017、1-22、田中
7. 田中晋作「和泉地域に投影された政権中枢勢力の動静」『塚口義信先生古稀記念 日本古代学論叢』査読無、2016、475-484、*田中
8. 田中晋作「古墳時代前期後半における畿内政権内の主導権をめぐる確執」『山口考古』36号、査読無、2016、55-64、*田中

〔学会発表〕(計13件)

1. 田中晋作「古墳時代の政権交替を考える」『古代学研究会4月例会』2019

2. 田中晋作「古墳時代の政権交替」韓国：古墳文化研究会（招待講演）、2019
3. 田中晋作「古墳時代の政権交替と軍事」岡山県古代吉備文化財センター「初期国家形成期の武装」、2019
4. 田中晋作「古墳時代の軍事と外交」広島県立歴史民俗資料館 平成 30 年度みよし風土記の丘文化財講座」、2018
5. 田中晋作「ヤマト王権の政権争奪と軍事」大阪府立近つ飛鳥博物館平成 30 年度秋期特別展講演会」、2018
6. 田中晋作「百舌鳥・古市古墳群と畿内政権」第 6 回百舌古墳群講演会 検証 河内政権論 - なぜ百舌鳥に大王陵が築かれたのか - 」、2017
7. 田中晋作「大王を支えた中小規模古墳の被葬者」羽曳野市教育委員会、2017
8. 田中晋作「倭の五王を支えた軍事勢力と東アジア情勢」下関市立考古博物館一般教養講座」、2017
9. 田中晋作「古墳時代前期の政権構造」中国四国前方後円墳研究会」、2016
10. 田中晋作「島の山古墳と畿内政権」奈良県立橿原考古学研究所附属博物館春季特別展「やまとのみやけと女性祭祀者」記念シンポジウム（招待講演）2016
11. 田中晋作「百舌鳥・古市古墳群と東アジア」堺がめざす世界文化遺産 - これまでとこれからを考える - 」、2016
12. 田中晋作「古墳時代前期の政権構造」中国四国前方後円墳研究会第 19 回研究集会」、2016
13. 田中晋作「武器の拡散にみる地域間関係」第 13 回古代武器研究会」、2016

〔図書〕(計 1 件)

1. 田中晋作編著『古墳時代中期の政権構造に関する基礎的研究 - 古市古墳群高塚山古墳出土資料の調査 - 』（付帯研究編）2019、1-206、執筆者：高橋工・塚本敏夫・藤田和尊・太田宏明・趙晟元・李東冠・呉光燮

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年：
 国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年：
 国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

氏名：高橋 工

ローマ字氏名：TAKAHASHI TAKUMI

所属研究機関名：(公財)大阪市博物館協会

部局名：大阪文化財研究所

職名：調査課長

研究者番号(8桁): 00344367

研究分担者氏名：塚本 敏夫

ローマ字氏名：TUKAMOTO TOSHIO

所属研究機関名：(公財)元興寺文化財研究所

部局名：研究部

職名：研究員

研究者番号(8桁)：30241269

(2)研究協力者

研究協力者氏名：藤田 和尊

ローマ字氏名：HUJITA KAZUTAKA

研究協力者氏名：太田 宏明

ローマ字氏名：OTA HIROAKI

研究協力者氏名：趙 晟元

ローマ字氏名：JO SUNGWON

研究協力者氏名：李 東冠

ローマ字氏名：LEE DONGKWAN

研究協力者氏名：呉 光燮

ローマ字氏名：OH KWANGSEOB

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。